

Press-release/E-flashから

『ITUジャーナル』編集部

Media Advisory

① 1月24日：

世界電気通信開発会議2006 (WTDC-06)
デジタル・ディバイド解消の合意に向けて
登録受付中

World Telecommunication Development Conference
2006

to agree on telecommunication development priorities
to bridge the digital divide

Register Now

(出典：http://www.itu.int/newsroom/press_releases/2006/Advisory-02.html)

世界情報社会サミット (WSIS) 後初の世界電気通信開発会議 (WTDC-06) が、2006年3月7～15日までカタールのドーハで開催される。本会議では、WSISで採択されたデジタル・ディバイド解消のためのアクションプラン及びチュニスアジェンダを考慮に入れた開発プログラム、プロジェクト、イニシアチブの実施、電気通信分野における開発のプライオリティ、WSIS後のITUの役割が焦点となる。開発途上国のインフラや施設の維持強化に不可欠な地域の取組、パートナーシップ及び国際協力を具体的にどのようにしていくか、今後4年間の活動計画となるドーハアクションプランが採択される。本会議には、世界各国の政府、国際機関及び民間から高官やエキスパートなど1,000名以上の参加者が見込まれている。

また、各地域の準備会合で検討されてきた以下の項目についても審議される：

- ブロードバンドも含めた過疎地域へのアクセス
- 地域ごとのインターネット交換ポイント
- 遠隔地での公衆インターネットアクセス
- ドメイン名の国際化
- 地域間でのローミング能力の強化
- ユニバーサルサービスのための財政計画

- e-Government推進に向けた政府ポータルサイトの増強
- ICTの安全性と信頼性
- e-Commerceのデジタル署名と公開鍵
- 過疎地域向けe-Health及び遠隔医療

会 議：WTDC-06

期 間：2006年3月7～15日

場 所：シェラトン コンベンションセンター、ドーハ、カタール

目 的：全世界の人々にICTの持つ利便性を提供するための具体的な戦略を検討

参加者：政府、民間、国際機関、ITU-Dのセクターメンバー

E-flash

① ITU-D e-FLASH No.17 (1月27日)：

(出典：www.itu.int/itu-d/e-flash/2006/jan-feb.html)

・2006年世界電気通信開発会議：情報社会の構築
World Telecommunication Development Conference 2006: Building the information society together
本記事内容は、①Media Advisoryと同一なので、翻訳は割愛する。

・WTDC-06に向け、第11回TDAG会合開催
The 11th Telecommunication Development Advisory Group (TDAG) meeting paves the way for WTDC-06

2005年12月12～16日まで、ジュネーブにおいて第11回TDAG会合が開催され、約200名が参加した。同会合では、WTDC-06に向けて、2006年から2009年のITU-Dにおけるプロジェクトの優先順位、戦略、行動計画並びに、WTDC-06に向けた各地域準備会合の結果について議論し、提案内容を合意した。

・民間セクター問題WG、WTDC-06への寄書を準備

The private sector prepares its contribution to WTDC-06

民間セクターの問題を取り扱うTDAGワーキンググループ (WGPS: Working Group dealing with private sector issues) が、2005年12月8～9日までジュネーブで開催された。同会合では、WTDC-02からのWGPS会合における成果、とりわけ、民間セクター問題に関する地域ワーキングパーティーの活動などを取りまとめた。本報告書は、TDAGへ提出される。

・ITU、ブータンのICT化を支援

ITU helps Bhutan access ICT

ITUと韓国のKADO (Korea Agency for Digital Opportunity and Promotion) は、ブータンのICT化を支援するために、パートナーシップを結んだ。KADOは、ブータンの13の学校と18の宗教大学に200台の中古コンピュータを寄贈する。ブータンの公用語ゾンガ対応ソフトを含むOSもインストールされる。

・南米、アジア太平洋地域、インターネットプロトコルに注目

Americas and Asia and Pacific regions look at internet protocol (IP) issues

2002年マラケシュ全権委員会議の決議102「インターネットドメインとアドレスの管理」のフォローアップとして、ITU-Dは、インターネットプロトコルシンポジウムをアジア太平洋地域 (タイのバンコク、2005年11月29～30日まで) 及び、南米 (アルゼンチンのブエノスアイレス、2005年12月5日) で開催し、インターネットの政策、運用、技術などについて議論した。

・ITUとNICT、「医療サービスへのアクセスの向上」に関する成功事例を出版

ITU and NICT Japan launch publication on "Making better access to healthcare services"

ITU-D、SG2のe-戦略プログラムの一環として、ITUと独立行政法人 情報通信研究機構 (NICT) は、現在、世界の約30か国で成功しているe-ヘルスプロジェクトの成功事例紹介を目的として、出版物を作ることにした。

・戦略から実践へ——社会・経済の発展にICTが貢献

From strategy to implementation - ICTs for social and economic development

チュニスで開催されたWSISのフォーラムにおいて、

ニジェールの国内向けICT計画及びルーマニアのe政府、eラーニング、ルーラル通信、eセキュリティのプロジェクトスタートが発表され、ITUとニジェール政府、ルーマニア政府とは協力を約した。

・ITU及びフランス政府、アフリカにおけるICT市場プロジェクトで協力

ITU and French Ministry of Foreign Affairs work together on an ICT market project in Africa

WSISの第2フェーズにおいて、フランス外務省は、ITUに対し、アフリカでのICT市場協調化プロジェクト (ICT market harmonization project) の第3フェーズの実施において、協力する意向を示した。

・ITU中米でICT先住民ワークショップを開催

ITU organizes the first indigenous workshop on ICTs in the Americas region

ITUとメキシコ政府は、2005年11月28～30日まで、メキシコシティにおいて、先住民問題に関する第1回地域ワークショップを開催した。19の先住民地域から、150名の参加があった。

・ITU、戦略的なICTリソースの開発に注力

ITU work focuses on developing ICT resources for strategic advantage

BDTは、バーレーンテレコム社 (BATELCO) の協力を得て、2005年11月21～24日まで、バーレーンのマナーマで、人材管理・開発に関するITUグローバル・シンポジウムを開催し、52か国から131名の参加があった。

・アラブ地域、固定とモバイルの融合及び新規ネットワークプランについて討議

Arab region discusses convergence and network planning issues

2005年11月21～24日、チュニスで、アラブ地域のための固定網と移動体網の融合及び新規ネットワークの構築に関する地域セミナーが開催され、政府、市民団体、民間企業などから約160名の参加があった。同セミナーは、チュニステレコムの協力の下に、BDTが企画したもので、通信、情報技術、放送の融合に関する概要が披露された。

③ ITU-T e-FLASH No.22 - AAP Special (1月30日) :

(出典 : <http://www.itu.int/ITU-T/e-flash/022-jan06.html>)

・ 勧告1,000件が迅速に承認

1000 recommendations approved in fast track

2005年11月に34件の勧告が承認され、代替承認手続 Alternative Approval Process (AAP) によって承認された勧告は1,000件を超えた。AAPは、産業界が望む期間内に標準勧告を市場に提供するために導入された迅速な承認手続である。11月に承認された勧告の中には、IP (Internet Protocol) ネットワークにおけるQoSに関するものが3件、LSDIと呼ばれる次世代デジタルシネマに関するものが1件、ホームネットワークのデジタル権利管理に関するものが1件含まれている。代替承認手続は、2001年に導入され、勧告化にかかる時間を80~90%減じたと見積もられている。これにより、90年台半ばは勧告までに4年を要していたものが、1997年には2年、現在では平均で2か月、最短で5週間で承認されるようになった。現在有効なITU-T勧告は、3,100件以上あり、毎年210件前後の新勧告又は改版勧告がつくられている。

・ TSAG議長はAAPについて

e-Flash Talks AAP With TSAG Chair

TSAG (Telecommunication Standardization Advisory Group) 議長Gary Fishmanは、AAP (alternative approval process) について、次のように語っている。「AAPは、いまや代替手続であるというよりも、普通の手続となっており、標準化作業を行う者の間では、ブランドネーム化している。AAPが導入される以前は、勧告案承認の最終段階が始まるまでに、2回のSG会合を経る必要がある、その間9か月間も空けなければならなかった。AAPは、日進月歩の電気通信工業界からの求めに応じて、このようなロスタイムをなくすとともに、メンバー国とセクターメンバーと一緒に承認手続を進められるという方式でもある。またAAPには、会合参加にかかわるお金を節約できるという重要な効用もある。代替承認手続の必要性が最初に言われたのは1994年京都全権委員会議で、ITUのリフォームを担当するグループによってであった。しかし、これは国際条約を変えるという提案であり、ミネアポリス全権委員会議 (1998) での合意に基づき、TSAGが具体的な手続案をつくり、2000年に開かれたモントリオールでのWTSAを経て、やっと実施できたのである。当初私は、全勧告の70%くらいに適用できるだろうと見込んでいたが、現在では80~90%くらいがAAPとなっている。AAP勧告は、ウェブでいつでも見ることができるし、毎月1日と16日には内容が更新され

ている」

・ 簡単なAAP手続の流れ

How it Works - AAP in a Nutshell

エキスパートによりつくられた勧告案は、十分に審議、推敲された後SG又はWP会合に提出される。SG又はWP会合で合意されれば、“コンセント”とされる。この“コンセント”が出ると、ITU-Tの局長が、コメントを求めるために勧告案をITU-Tのウェブサイトに掲載し、AAP手続開始を公言する。ラストコールと呼ばれるこの期間は4週間である。この間、編集上のコメント以外のコメントがなければ、勧告は承認される。しかし、内容に関するコメントがあった場合、SG議長はITU-Tの局長と相談の上、エキスパートによるコメント解決プロセスを立ち上げ、改訂の要否を検討する。改訂が必要とされた場合、改訂勧告案文をウェブに掲載し、3週間の追加審査期間を設ける。追加審査期間にコメントがなければ承認となる。もしコメントがあれば、勧告案と全コメントが次のSG会合に送付される。次のSG会合が近づいており、かつSG議長が適切と判断した場合には、勧告案と未解決コメントは、直接次のSG会合へ送られる。AAP承認手続の詳細は、ITU-T 勧告A.8に書かれている。AAP手続に入っている勧告案の状況は、月に2度以下のウェブで更新されている。

<http://www.itu.int/itudoc/itu-t/aap/announce/05-08/index.html>

④ WSIS E-FLASH No.24 (1月30日) :

(出典 : <http://www.itu.int/wsis/newsroom/eflash/2006/number24.html>)

・ WSISのE-FLASHの継続発信等について

Editorial

WSIS事務局はWSIS後の各国各機関の活動をフォローアップするため、E-Flashを継続するとともに、ウェブサイトを存続させることとした。これにより、WSISで合意された事項への取組や進捗状況について、定期的にフォローアップしていくことができる。

・ WSISの事務局も存続決定

WSIS executive secretariat maintained

ITUの事務総局長は、WSISのジュネーブアクションプランやチュニスアジェンダでの合意事項を確実に実施していくために、規模は縮小するが、WSISの事務局を存続させることを決定した。

- ・2006年2月24日のWSISアクションラインのモデレーター・ファシリテーター会合について

Meeting on WSIS action lines moderators/facilitators on 24 February 2006

チュニスアジェンダでは、「ジュネーブアクションプランを、国際間のマルチステークホルダー方式により実施していく」と宣言している。この宣言を推進していくため、活動の中心機関となるITU、UNESCO、UNDPは、2006年2月24日にジュネーブにおいて、最初のマルチステークホルダー協議会合を開催する。本会合の目的は、WSISアクションラインの各テーマを担当するモデレーター・ファシリテーター・リストを完成させることと、WSISでの課題を実施するに当たっての協調の在り方、作業分担、成果の見極め方について協議することである。

- ・2006年2月16～17日のIGF（インターネットガバナンスフォーラム）協議会合について

Internet governance forum - consultations on 16-17 February 2006

国連事務総長のWSISスペシャルアドバイザーであるMr. Nitin Desaiは2月の16～17日にジュネーブでIGF開催のための準備会合を開催する。会合の目的はIGFの性格（nature）や特性（character）を明確にすることである。会合では、IGFの担当業務、優先課題、組織と役割や、第1回会合のアジェンダとプログラムを含む開催事項についても協議される。

- ・WSISのゴールデンブックについて

WSIS golden book

WSISゴールデンブックは、WSISチュニスフェーズにおいて表明された新しいイニシアチブや各ステークホルダーの取組を支援するために、2005年10月に作成が開始された、取組案件とその進捗状況のデータベースである。2006年の第1四半期には、ゴールデンブックに登録されたデータベースの内容を、特別刊行物として発行する予定である。

- ・WSISの実績調査について

WSIS stocktaking

チュニスサミットで公開されたWSISストックテイクングレポートがITU E-Bookshopで入手可能である。本レポートにはWSISジュネーブで決議された課題に対する政府や各ステークホルダーの活動一覧が掲載されており、情報社会構築に向けた活動事例も記載されている。詳細は、以下のウェブから見られる。

www.itu.int/wsis/stocktaking

- ・ITU「コネクタザワールド」を推進

The ITU development initiative "Connect the World"

ITUは、「コネクタザワールド」に賛同している組織のリーダーの参加の下、互いの経験を交換し、「connect the unconnected by 2005」という世界的な誓約にサインするための会合を、チュニスサミットの初日に開催した。また、ITUは、チュニスサミットにおいてパートナーシップバビリオンを設け、ITUが各パートナーと進めている取組について展示した。今後、ITUは、カタール政府と協力して、コネクタザワールド「パートナーズパネル」を、2006年3月7～15日にドーハで開かれるWTDCでのサイドイベントとして、実施する。詳細は、以下のウェブから。

<http://www.itu.int/partners/index.html>

- ・WSISの成果文書

WSIS outcome documents

WSISの成果文書最終版は、www.itu.int/wsis/で6か国語で公開されている。

- ・WSIS事務局のE-mailアドレス変更について

New general WSIS contact e-mail address

スパムメールが余りに多いため、WSIS事務局のメールアドレスを変更する。新しいアドレスは、<http://www.itu.int/wsis/contact.index.html>から入手可能であるが、読者諸兄姉には、各自のウェブにコピーしないようお願いする。スパマーは、ウェブサイト上にあるメールアドレスを自動的に引き出して悪用するから。